

## 令和6年度 第2回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

### 1 日 時

令和6年11月12日（火） 午前10時から12時まで

### 2 場 所

静岡市地域福祉共生センター 「みなくる」2階 第一会議室

### 3 出席者

（委員）古井委員、望月委員、稲垣委員、岩崎委員、鈴木委員、田村委員、山田委員  
（駿河区地域包括支援センター）7地域包括支援センター

### 4 事務局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係  
保健福祉長寿局 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 地域支え合い推進係

### 5 傍聴者

3名

### 6 意見交換及び情報交換（司会及び進行は古井部会長により実施）

（1）各地域包括支援センターから令和6年度の活動状況について報告及び意見交換  
別紙 各地域包括支援センター部会シート参照

#### <大里中島包括>

包括：

重点目標として、1つ目は若年層への認知症教育、2つ目は専門職種との連携継続、3つ目は昨年取り組めなかったグループホームとの連携を取り組むこととした。

1つ目の若年層への認知症教育では、昨年度初めて小学生に認知症サポーター養成講座を開催し非常に反応が良かったため、7月中島児童クラブ61名を対象に開催した。講師は大里高松包括の所長を迎え、非常に楽しく行うことができた。昨年に引き続き、小学生は多様性の一つとして認知症を捉えるということを勉強させていただいた。少し年齢が上がると、認知症に対して危惧するものという感覚があるが、小学生にとっては髪の色が違う、肌の色が違うといった程度の捉え方だということを今年度新たに勉強させていただいた。

2つ目の専門職種との連携継続では、主任ケアマネジャーの会をここ数年包括で開催している。主任ケアマネジャー、主任ではないケアマネジャーたちが当番制で主催し年間4回開催予定。7月には、成年後見や生活保護の制度を取り入れたテーマで開催した。ケアマネジャーたちから企画を出してもらい、包括がバックアップをし、会場を貸して準備し大変盛況に終わった。10月には、BCPの能登災害ボランティア講師を呼ぶ予定だったが、講師の都合で延期となり11月に行う予定。4回目についてもケアマネジャーたちが非常に早くから準備に取り組んでいるため、無事に連

携ができる形になっている。また、地域の専門職種として、理学療法士や管理栄養士、薬剤師等にも時々足を運んでもらっているため、連携を続けられている。

3つ目のグループホームとの連携では、1つのグループホームから他のグループホームの様子を聞きたいという希望が出たため、大里中島圏域にある5つのグループホームで、年明けに会議を行うこととなった。その中の3~4のグループホームからこういった会議は非常にありがたいとのことで参加希望を募って開催する予定になっているため、こちらも今後継続できるようにしたい。

望月委員：

子供たちの認知症の捉え方がとてもいい流れだと思った。長年の包括の取り組みがいろいろ影響をあたえていると感じ、とても感動した。家族で支えることが難しくなっている中で、やはり地域でのサービスをどれだけ作っているかは、今後本当に大事になってくると思うため、子供たち、将来の担い手への取り組みはとても大事だろうなと思った。

現場が一番辛い思いをしていると思うが、職員の数が半分ということに関してはどうか。

包括：

正直辛いと感じている。2年ぐらいの間、新しく職員が入ってきて仕事を教えるが半年ほどで辞めてしまうという状況が続き、残された職員は疲弊している。今年の1月に入職した職員が8月に退職して、9月の時点で3人だが、10月にまた新しく入ってきた。目の前の相談対応で精一杯で、自立支援プラン型ケア会議はまだ1回しかできていない。

望月委員：

全ての包括も含めて、人員確保や教育について意見を交換できるとよいと感じた。

山田委員：

児童向けの認知症サポーター養成講座というのは他の包括でもやっているのか。これは認知症の啓発活動というより、サポーターを養成するための講座になるのか。また、中島児童クラブは小学校で行っている放課後児童クラブや地域の子供会のようなものか。

包括：

静岡市社協が受託している放課後児童クラブで実施した。高齢者やミドル世代だけでなく、小さな子供にも全く先入観がない状態で認知症を知ってもらい、自然な形でサポーターになってもらうということは、どこの包括もやっていると思う。市から講師を派遣してもらい、子供向けに紙芝居やDVDでわかりやすく噛み砕いて話をしている。

古井部会長：

児童向けと言いつつも、子供が家庭に帰って家族にその話をして、またその家族の認識も変わっていく。対象は子供だが、子供に関わりのある家族や地域への広がりも含めた取り組み方を考えているため、今後も活動を続けてほしい。

## <小鹿豊田包括>

### 包括：

重点目標として、包括の知名度を上げる、フレイルや認知症予防を広める、地域のネットワークづくりを行っている。

1つ目の認知度を上げることについて、例年通りチラシ作りやS型デイ、地域の勉強会、清水銀行の相談会などに参加している。清水銀行の相談会は年2回行っているが、小鹿豊田学区では他の銀行や郵便局も有効かと考えられるため、次年度に向けて方向性を考えていきたい。チラシに関してはすでに1回配付し、もう1回全体のものを作っている状況。

2つ目のフレイルや認知症予防を広めることについて、今年度は歯科衛生士によるオーラルフレイル予防講座を7月に開催した。同月に健康機器を使った健康講座を開催した。昨年度に実施したS型デイサービスで行い、結果を比較した。来年2月に別の学区で始める予定のためまた報告する。その他、年齢層の上がっているマンションが増えてきており、健康や介護保険などの勉強会に呼ばれる場合やこちらから提案する場合があります、2か所のマンションで勉強会を行った。マンションの問題点としては、管理組合、会長の熱量の高いところや管理人が協力的なところもあれば、住民のプライバシーの問題で協力が難しいところもある。熱量の違いで上手くいったり、上手くいかなかったりすると感じている。

3つ目のネットワークづくりについて、民生委員とケアマネが相互に理解し、個別に連絡を取れる関係づくりを進めている。民児協で時間をいただき2学区で実施した。残りの1学区も年内に実施予定。災害時の連絡先に民生委員の名前をあげることにに関して協力が得られるようになった、今まで顔がわからなかったが連絡しやすくなったという話が聞かれている。エンディングノートの立ち上げのときから入っているケアマネジャーに、エンディングノートの説明をお願いし「自宅でずっとミーティング」でエンディングノートを活用した、3年越し3回目のBCPの交流会を2月に行うことになっている。

### 古井部会長：

マンション単位での取り組みはとても地域性があってよいと思う。マンションによって熱量が違うという課題に対して何か具体的に切り込むときに、現状として自発的な声掛けがあったときにやっているのか。今後、自発的な声掛けに限らず何か取り組むとしたらどんな方法がいいのか紹介していただきたい。

### 包括：

やはりきっかけがないと話が入っていかない。会長の方から「最初は子育て世代だったのが60代を迎えるような歳になってきたため、介護保険などの勉強会を開きたい」との申し出があって入ったり、高齢者が元々多いマンションでは社協と共同で勉強会を開いたりしている。高齢者がいないマンションは介入が難しく入ることができていない。

### 古井部会長：

個々の取り組みの事例が集積され、それらを含めて今後自発的な声掛け以外にどう働きかけたらいいかを検討している段階ですね。

稲垣委員：

小鹿豊田地域に限らず最近駿河区でマンションが増えてきている。自治会からマンションに情報提供する手段として、もしマンションに一括して配布したい書類があれば、各階に置く場所を決めてもらったり、マンションの中でそのパンフレットを配布する役を決めてもらったりする。自治会も包括同様に悩んでいることであり、少し踏み込み過ぎかもしれないが、パンフレットの置き場所や配布方法についてマンションの管理者と話をしてみてもよいのではないかと思った。

包括：

パンフレットの配布はとてもPRになるが、ポスティングはなかなか難しいため代表の方に相談するのはとても大切だと思った。

古井部会長：

管理者や管理組合との関わりはとても大事だと思う。そここの話し合いを少し焦点化していくという委員からのご助言だった。

岩崎委員：

地域ネットワーク形成等に係る地域会議は0回で正しいか。

包括：

今のところまだ行っておらず、自宅ですべてミーティングを開催したときに1回になる予定。

岩崎委員：

民生委員とケアマネジャーの交流会を実施し地域のネットワークづくりは始まっているとは思いますが、この交流会の共通の課題や研修内容を教えてほしい。

包括：

やはり防災の問題が出ている。そこでネットワークづくりの入り口として連絡先の共有や高齢化という課題があり、難しい問題であるが支援していきたいと思う。

岩崎委員：

地域で民生委員の方々が声をかけ合うことが注目されているため、引き続き支援をお願いしたい。

古井部会長：

民生委員とケアマネジャーの交流会で話題になっていることや課題を集約しながら、地域ケア会議のテーマを設定し、年度内に対応していただけるとよい。

## <大里高松包括>

### 包括：

まず総合相談支援事業について、相談の内容が複雑化しているため、地域ケア会議や事例検討会などを活用して課題解決に努めている。事例検討会は、担当のケアマネジャーと包括職員全員がケースの情報共有や今後の支援方法を見つけていくための話し合いの場としており、好評をいただいている。会議を複数回開催してもなかなか解決ができず、解決が長引いてしまうケースもある。当事者や家族の特性に対して支援者チームは的確な対応が難しく、疲弊していることが多いと感じている。このような事例は、こころの健康センターのアウトリーチ事業を活用して解決の糸口が見つかったこともある。しかし、介護分野と障害分野の連携など既存の制度やサービスの枠では対応が難しい場合が多く、地域での取り組みだけでは解決が導き出せない状況にある。精神科医療の分野や行政機関との情報共有、連携を深めていく方法を探っていきたいと思う。

次に、包括的・継続的マネジメント事業についてである。1つ目として、主任ケアマネジャー連絡会でヤングケアラーについての研修を企画し、圏域内のケアマネジャー向けに研修を行った。2つ目として、ケアマネジャーが気軽に集まることのできるサロンの開催希望があり、毎月1回、偶数月はウエルシア薬局のウエルカフェスペースにて、奇数月は有明団地内のなごみで開催している。八幡山包括と隔月で担当しているが、参加人数は伸びていない。しかし、薬剤師や訪問診療クリニック相談室の方などの参加もあるため、主任ケアマネジャーの自主的な活動に繋がるように支援を続けていきたい。3つ目に、障害分野と介護分野の連携を目的として毎年研修会を開催している。今年度は地域の民生委員とケアマネジャー、障害福祉サービスの計画相談員と地域課題について話し合うための地域ケア会議を開催した。それぞれの立場や役割を把握することができ、好評だった。

最後に認知症総合事業については、圏域内にある南部図書館で2年連続して認知症サポーター養成講座を開催した。これまでの活動により連携できる関係が構築され、9月に商業施設で行われたアルツハイマーデーのイベントにも参加を依頼し、とても賑やかに行うことができた。地域の中田まつりでは子供向けの認知症教育を行った。また、圏域内にあるサービス事業所と市民向けの相談会を開催する中でしずメールをPRし、市民の方だけでなく事業者に対してもPRを行うことができた。認知症初期集中支援チームの活動は今年度1件行っている。実際に活動してみて、総合相談との違いがわかりにくく、後方支援チームとの連携のタイミングが難しいと感じた。しかし今年度支援中のケースについては、成年後見制度の市長申し立てについて、高齢介護課へ検討の依頼がしやすかった点は利点である。

### 稲垣委員：

認知症初期集中支援チームのメンバー等教えてほしい。

### 包括：

認知症初期集中支援チームでは、なかなかサービスに繋がらない、医療に結びつきにくい方を対象に、包括職員で結成したチーム員が中心となって相談業務を行っている。チーム員には他に、認知症疾患センターや、地域のサポート医にも入っていただいている。

山田委員：

認知症初期集中支援チームは、最初から包括にこういったチームがあるということではなく、初期集中支援が必要なときにそれぞれの包括でこういったチームを組むということなのか。

包括：

包括職員にチーム員は常にいるが総合相談との違いがわかりにくいため、認知症相談が入ったときも、通常の相談と同様に包括職員が支援や対応をしている。初期集中支援チームとして動く部分と総合相談として動く部分の住み分けがわかりにくい。

山田委員：

集中的というのはどのくらいの期間を想定されているか。

包括：

原則半年だが、終結の判断が課題である。

古井部会長：

認知症初期集中支援チームの担当者の方がどういうときに動くか、判断を具体的にご紹介していただきたい。

包括：

今対応中のケースは、2年ほど前から総合相談で支援をしている。本人は元気だから大丈夫だと言い医療受診につながらない状態が続き、近所の方から包括へ本人の様子がおかしいという相談が入った。支援の難しさを感じたため、認知症初期集中支援チームとして対応することになった。

古井部会長：

典型例として本人は大丈夫だと思っているが、周りの方々が心配して包括へ総合相談をする、実際対応する人員に限られるためチーム員を中心に半年間は関わりつつ関係機関と連携していくイメージということか。

包括：

検討の結果、認知症初期集中支援チームとして、今年度は対応している。

古井部会長：

課題として半年間での終結が難しく、その次にどう繋げたらいいかということが挙げられているのですね。

岩崎委員：

人員構成について聞きたい。職員7人中4人が社会福祉士であり、他の包括と比較し充実している人数だと思う。社会福祉士4人が重点的に行っていることはあるか。

包括：

権利擁護の相談があったときには社会福祉士が中心となって対応している。

岩崎委員：

非常に羨ましい人数だと思うので、この方々が引き続きやっていただければと思う。

<丸子包括>

包括：

重点項目の1点目として、権利擁護について挙げている。内容としては長田包括と合同で、ケアマネジャーやサービス事業所を対象として、日常生活自立支援事業や身元保証会社のまごころ、権利擁護支援センターに講師を依頼し、11月に勉強会を実施する予定である。実施後のケアマネジャーや事業所の反応を見て、課題等を考える予定としている。また、S型デイサービスや老人会に呼んでいただく機会が多いため、S型デイサービスでの寸劇やチラシなどで注意喚起している。

2点目として、ケアマネジャーとの連携やスキルアップを目的とした勉強会を行っている。個別の支援困難ケースなどで相談が上がったことに関して、包括等と一緒に個別会議を開催し、回数を重ねて検討していく中で地域課題が見えてくると考え、回数を重ねている最中である。少しずつ丸子圏域の様子が見えてきており、高齢者と1人息子という世帯が支援困難ケースとして占めているため、ここが地域課題に挙がってくると考えている。また、長田包括と合同で3ヶ年計画を考えている。ケアマネジャーを対象とした勉強会を昨年度1回目、今年度2回目としている。その他には、圏域の居宅支援事業所を回って、各ケアマネジャーや事業所の意見、支援困難ケースを抱えていないかどうか話を聞いている。その中で、まずBCPという点で各居宅支援事業所から意見が上がってきたため、勉強会をやりたいと考えている。丸子包括は長田西学区と長田北学区を対象としており、まずは長田西学区の民生委員を対象として、丸子圏域の居宅事業所との顔合わせや互いの業務について話し合い、相互理解を深めた。

3点目として健康講座について、丸子包括は看護師・保健師が4人いるため健康面に力を入れている。S型デイなどで健康講座を行ったり、ふれあいカフェでかけこまちの協力を得て認知症体験などを実施する予定になっている。

古井部会長：

2つ目の重点項目に挙げられている介護支援専門員との連携強化が非常に大事な局面だと思う。

BCPの他、居宅介護支援事業所を回る中で悩みなどは聞いているか。

包括：

圏域に居宅支援事業所が8つあり全てを回ったが、複数のケアマネジャーがいる事業所もあれば1人しかいない事業所もある。それぞれに支援困難ケースをどれくらい抱えているかという質問をさせていただいた。複数いる事業所はその複数人で検討することができるため数が上がってくるが、1人のケアマネジャーだとその人の尺度によって判断されるため横の繋がりをなかなか取りづらい

という点がある。横の繋がりはいらぬという事業所があったり、地域の情報を知りたいという事業所があったりと事業所によって考え方が異なり、包括としてどう介入するか検討している。

古井部会長：

質問した理由として、10月の運営協議会でケアマネット協会の方から今ケアマネジャーが疲弊しているという話があった。他の機関との繋がりが今必要ないと言い切れるのは、逆に言い切らないとやれないのかなと感じたため、連携を働きかけることも難しい可能性がある。

包括：

繋がりはいらぬと言ってはいるが、実際災害などが起きたときには横のつながりが必要であると包括は考えているため、働きかけは継続して行っていく。

丸子包括としては地域相談や総合相談や個別ケースの会議を重ねていく中で、多重化している問題を抱えている家族が増えていることを実感している。当包括でも重層的支援会議を1件挙げていて、会議によって実際に支援が進んだ事例を体験しているため、アウトリーチするチームがより多くあれば今後相談や対応がしやすいと感じている。

<長田包括>

包括：

まず1点目として、学区別の地域ネットワーク会議についてはシートの記載通り実施している。まんべんなく参加者の方を募っているが、クリニックや歯科医院の参加が診療の関係で参加が難しいことが挙げられるため、今後は時間設定などが課題だと感じている。地域の方は毎回15～20名程の参加がある。地域の状況を共有しながら必要なときに連携に繋がられるような関係作りの場として、毎回時間が押すほどに話が盛り上がりとても有意義な機会になっている。

2点目のwellbeingおさだっぷは今年度新しくスタートした。この事業の大きな目標として、「正しい情報を地域住民の方に届けたい」、「受身ではなく主体的に生活していただく住民を増やしたい」という2点が挙げられる。おさだっぷというネーミングは長田パワーアップの略で、スポーツジムのチョコザップとも掛け合わせていて、チョコザップのように何回も何回も通うことで少しずつ知識や人との繋がりを蓄えていってほしいという思いが込められている。

カラー刷りのまるけあ長田という広報紙の裏面に、おさだっぷという講座の一覧があり10月に3回目が終わった。1回目の8月は高齢者ドライバーの運転について関心が高いためこれについて講座を行い、2回目の9月は沿岸部に位置している圏域で防災の意識が高い地域のため、防災士から自宅にある食材で介護食の作り方について調理実習を交えて教えてもらい、共有することができた。3回目はエンディングノートの内容について講座を行った。おさだっぷはエンディングノートの講座のために企画したわけではないが、4月におさだっぷを計画しているときに静岡市からエンディングノートが発行され、その問い合わせが4、5月とても多かった。一方で、その後書き方を1人ずつ教えることができないこと、しっかりと活用されているのか確認することができなかったことから、エンディングノートに沿った内容を企画した。10月の講座からエンディングノートの内容に入り、長田包括職員が講師を務めて自分史作りと関連図（ネットワーク図）を参加者に作ってもらうなどワークを盛り込んだ講座を企画した。主体的に生活していただくという点をエンティン

グノートと掛け合わせた。資料も一生懸命作り準備した。西田敏行さんのパーソナルヒストリーを自分史の例として配付し、参加者自身の自分史やネットワーク図作り、自分はどこのネットワークが弱いかを発見してもらうワークを行った。

また、抱き合わせで認知症講座を組んだ。エンディングノートと認知症講座はすごく相性が良かった。終活を考えると自分の人生を自分自身で選択していく、決断していくことで満足度が高くなること、その選択をしていくための認知機能を維持していくことが大事だということが、参加者に受け入れられたようである。8月は16名からスタートしたが、10月は定員20名のところ36名の参加があった。10月末に静岡新聞にも取り上げていただいた影響もあり、来週第4回は既に46名の申し込みがある。参加者の約85%は圏域内の地域住民だが、葵区や清水区からの参加者もある。リピート率も80%超と高く、毎回参加者がその場で次回の申し込みをして帰る状況である。

チラシやネーミングで高齢者感を出さないようにしており、その影響か回を追うごとに参加者の平均年齢が下がっている。親のために自分史を作ってあげたいと50~60代の娘の参加もあった。課題としては、交通手段がないことが挙げられる。総合相談で出会った方に対し参加を呼び掛けても、会場まで行く手段がないという声を聞いている。

3点目の good at プロジェクトは3年目に突入する。老人センターを借りて7月の講座を行い、2月も表記の通り計画をしている。繋がり先を支援するロビー活動もあわせて行うことになっており表記の団体に参加してもらうことになっている。また、おさだつぶも good at も、高齢期になってから慌てないよう早めの準備をしてもらうための企画なので、介護に携わる可能性のある若い世代にも関わってほしいと思っている。企業、事業所の人事課や総務課にも包括の話を届けるため、プレシニアの世代に訴えていきたいと考えている。

山田委員：

地域ネットワーク会議の実施というところで、警察や消防、金融機関やスーパー、コンビニまで参加して開催されており、大変素晴らしいと思う。

包括：

今年度は全面的に包括が主催し、前期後期1回ずつ行った。生活支援コーディネーターとも調整のうえ、開催方法を検討している。

古井部会長：

おさだつぶの取り組みは、とても興味深く、いい取り組みだと思っている。生涯学習センターと共催したきっかけや効果を紹介していただきたい。

<長田包括>

6年前から関係機関連絡会議を開いており、生涯学習センターや老人福祉センターから男性の居場所作りに困っているという話が出た。その後コロナ禍になってしまったが、両者の要望と等センターが発案した good at プロジェクトと噛み合っていた。good at プロジェクトをやるときに、共同してコアメンバーとして動いてもらえないかという話を投げかけたところ、生涯学習センターと老人福祉センター、生活支援コーディネーターからコアメンバーになりたいと言ってもらい、そ

こから関係性ができた。おさだつぷを実施するときも、生涯学習センターから共催の場合は会場費がかからないという提案もいただき、当センターからはアンケートを共有したり内容をすり合わせたりすることで互いに良い関係を保ち実施している。

#### <大谷久能地域包括支援センター>

包括：

重点項目1つ目は、包括業務の周知と大谷久能くらしみまもりたいの普及である。当センターでは、大谷久能くらしみまもりたいが継続していくよう普及活動に重きを置いている。地域の定期巡回による包括業務の周知と見守りを行い、気軽に相談できる関係作りに取り組みながら、組長会や地区社協などでみまもりたいの説明を行っている。地域の活動場所や開業医、パイプ役の住民への定期的な巡回や相談終了者へ定期的に関わることで、介護予防や病気の予防に繋げている。また、4月の圏域会議では職員による寸劇を行い、見守り活動の必要性について話した。

重点項目2つ目は、多職種ネットワークによる地域支援と協働の促進である。専門職の派遣については、地域への声掛けや要望によって調整等を行っている。介護予防への意欲やかかりつけ薬剤師を持つことの理解に繋げることを目的としている。また、認知症予防プログラムの一環として、常葉大学の理学療法士の学生派遣を通して、認知症予防を学ぶことに加え、未来の専門職を育てる一助となることができた。偶数月に開催している地域ケア会議は、これが知りたい、困っているといた地域住民の声からテーマを決め開催している。

6月には新聞や広報誌にも掲載されたエンディングノートの問い合わせが多く見られ、民生委員からも住民に周知したいという要望を受け、終活をテーマに講師を招いた。8月には「もしものときの人生会議をしませんか」をテーマにACPの講座を開催しエンディングノートの説明と、「もしバナカード」の体験をした。カードを選んだ理由を話したり聞いたりすることで、自分自身の大切なことや価値観に気づき、他人の価値観に触れることで考え方の多様性を実感する機会となった。10月には、昨年度の地域づくり会議におけるアンケートで、住民や事業所から災害時の不安が多く寄せられていたことから、圏域内の施設、グループホーム、ケアマネジャー、民生委員と災害時における応援体制に向けて課題を共有した。災害時には孤立してしまうのではないかと、施設の近所に住んでいても対象者は誰なのかわからないという話や、入所施設から人手不足が課題に挙がる一方で施設を避難所として開放してもいいという話もあった。ケアマネジャーは、民生委員が日頃から災害時を意識して見守り活動をしていることを知り、地域の顔の見える関係構築の大切さを知る機会となった。

自立支援プラン型会議は台風の影響で8月から10月に延期になった。参加したケアマネジャーからは、アドバイザーからの様々な資料やアドバイスを受けられたためまた参加してみたいという声が聞かれた。

重点項目3つ目は、介護予防を目的とした活動と参加・交流の創出である。昨年の地域づくり会議におけるアンケートでも、活動場所を知りたいと住民やケアマネジャー、介護事業所から要望があり、生活支援コーディネーターとともに居場所マップ作成をすることになった。活動の場所に加え、事業所や利用者の「足」となるしずてつバスや日本平バスのバス停、移動販売を記載することも検討している。今後も定期的に活動に顔を出していくことで、それぞれの活動の場での課題や参加者の様子に合わせた形で、介護予防や健康促進などの講座を開催していきたいと思う。また、久

能地区は介護などの話をすると、縁起でもないと訴える方がまだ多くいる。自主グループから健康の話、介護予防、介護保険について少しずつ理解を深めていこうという声が出てきていることをチャンスと捉え支援している。これからも知りたいという前向きな声を拾い上げて、自発的に活動へ参加し、多くの方が講座に参加できる機会を作りたいと考えている。

望月委員：

地域ネットワーク形成の地域ケア会議が4回開催され、他のセンターと比べるとすごく多いが、いちご栽培のビニールハウスの被害や、崖崩れなどから防災について要望が多く実施しているのか。

包括：

10月に防災をテーマにしたのは、8月31日にいちごのビニールハウスが壊れたり、お墓も流れてしまった、床下浸水もあった等かなり被害が多かったこと、グループホームも静岡大学の方や山の中にもあるため、そこも含めて不安が多いかなと思い企画した。

望月委員：

身近でそういうことが起きると、それをきっかけに支援につながれると思った。縁起でもないと言われたと思うが、そういうところも災害のいいところだったり悪いことだったりするため、そきっかけを大切にして何か企画ができると良いと思った。

古井部会長：

配置人員3人のところ本会議に2人出席している点が、人員体制として気になる。

包括：

やはり長続きしない方が多い。イメージと違ったと言われてしまうこともある。静岡市で最も小さい圏域のため活動できているが、留守番がない点は困っている。

古井委員：

先ほど望月委員からも話があったが、地域との関わりを深く持っている分、個別の相談が入ってくると思う。どうしても手薄になってしまうこともあり得るかと思うので、引き続き法人の努力をお願いするしかないのかなと考えている。

山田委員

本当に幅広い仕事があり2人じゃ大変だと思う。そういった中でも地域住民と連携するために協力している。パイプ役の地域住民は、自治会の役員や民生委員を想定しているのか。

包括：

地域の活動の場に出られている方や、以前相談のあった方の家族、支援している方の友人など様々である。本人はパイプ役になっているつもりはないと思うが、早めに連絡をもらえるため早期

対応につながっている。

山田委員：

大谷久能くらしみまもりたいは、買い物支援も行っているのか。

包括：

地区社協と社会福祉法人駿府葵会が協力して、週1回買い物支援をしている。

山田委員：

それは近隣のスーパーやドラッグストアに行くということか。

包括：

地域にあるスーパーマーケットやドラッグストアに、民生委員が付き添い、買い物をして帰っている。

山田委員：

買い物支援や移動支援に、包括は直接支援しているのか。

包括：

民生委員は介護のプロではないため、お金の支払いや移動で事故があってもいけないと思い、包括職員も定期的にスーパーに顔を出して移動の様子や、支払いの様子を確認している。必要時は、本人や民生委員に声掛けをしたり、今後の対応につなげるために包括が介入している。

<八幡山包括>

包括：

まず、総合相談、在宅医療、生活支援体制整備事業の進捗状況だが、自立支援型ケア会議を2回、大里高松包括主催の圏域の主任ケアマネの連絡会に参加をしている。市営有明団地で生活支援コーディネーターや地域のケアマネジャーと月2回、相談会を開催している。また、団地の住民を対象に「自宅ですっと」を続けるための講座を2回開催している。講座を通じて生活上で困っていることを住民同士で話し合い、互助という形で対応している。この取り組みは、居場所活動に加え、理美容が月に1回始まり、現在は食事の提供をしている。居場所活動会場の中に簡単な調理施設があるため、今は地域の方が賞味期限ギリギリの冷凍食品を安く仕入れて、それを調理して提供したり、自分たちで近所の農家から安く野菜を買ってきて調理をして食事の提供をしている。今まで外に出てこなかった方が毎日食べ物を買いに出てきてくれることで、安否確認ができるシステムになっている。包括が主導ではなく、地域住民同士が足りないものを自分たちで話し合い自主的に取り組む体制ができています。

また、県営の有明団地では高齢者が増えてきたため、自治会で介護サービスが円滑に利用できるような環境を整えた。団地の駐車場は3台しか停められなかったため、介護サービス事業所用の駐

車スペースを作り、県の住宅課などと交渉して、10月半ばぐらいから駐車券を発行して停められるようになった。40弱の事業所が駐車券を求め説明会に来ていた。介護サービスを提供するときに、ヘルパーや訪問診療などの車を停める場所がないとサービスを提供しにくいという声から、自治会が積極的に動いてくれている。この自治会では秋祭りを初めて開催し、キッチンカーやパン屋、ラーメン屋を呼び込むなど近隣の若い人に来てもらうような工夫もみられた。

次に、居場所や相談先となる拠点作りを行うため、富士見台自治会と共同で認知症に係る相談会を先週行った。生活支援コーディネーターが場所の設定やチラシ等を作った。そのチラシを見て相談に来てくれた方が1時間で4名いた。健康器具で認知症の測定などを行い、そちらも1時間で17名来た。富士見台地区は割と今まで包括が介入しにくかった地区だが、今回の相談会を実施してみて今後のチャンスができたと思っている。これも地区社協、生活支援コーディネーターが一生懸命動いてくれたため相談会の開催につながった。参加者からは、またやってほしいという意見もあったため、今後も続けていき居場所づくりまでつなげていきたいと考えている。

地域が自分たちで問題点を掘り下げて解決策を見つけて動いてくれるため、ネットワーク会議をするまでもなく話が進み、互助の中で解決に向かっていると感じる。しかし過度な支援は後継者がいなくなってしまうため、ある程度コントロールしていくのが生活支援コーディネーターや包括の役割だと思う。大変なところは包括職員が対応してければよいと思っている。

山田委員：

新規相談や再相談は相談票にて情報共有しているということだが、こういったものが情報共有だけで終わらずに支援者に繋げていけるとよい。顔の見える関係作りはすごく努力されており、お互いに理解して気軽に連絡を取れるような環境を構築するという事は、災害時も役に立つ。そういったことでも顔の見える関係というのは非常に大事なため、続けていただけたらありがたいと思っている。

何回か「なごみ」にお邪魔したことがある。相談者が惣菜を買って、その団地の方に届けてあげるといったサービスをやっていたため、素晴らしいと思った。

包括：

地域住民同士が、あの人食べるものがなさそうだから持って行ってあげようというような見守り体制ができています。今までは重症化してから関わるケースが多かったが、今は安定している。

古井部会長：

全体を通して何か意見交換ができればと思う。先ほどの長田包括の報告にあった生活支援体制整備事業について、地域包括ケア・誰もが活躍推進本部から補足はあるか。

地域包括ケア・誰もが活躍推進本部：

生活支援コーディネーターが各圏域を担当しており、その内容は包括の活動と重なる部分が多い。圏域ケア会議と、生活支援コーディネーターが開催する地域づくり会議は、生活の中での困りごとをどう考えていくかの課題を共有するというところに事業の重なりがある。包括と生活支援コーディネーターが連携を深めてもらうことで、地域の皆様と一緒に会議を開催したり、一緒に取り組ん

だりすることも増えてきている。地域差はあるが駿河区の包括は熱心にケア会議などを開催しており、地域住民も本当に自分のこととして検討をしていると思う。駿河区のそういった素敵な取り組みを他区で生活支援コーディネーターや包括も共有しながら、市全体の底上げになっていけばよいと考えている。またいろいろな情報を包括に共有してもらいながら、進めていければと思っている。

古井部会長：

補足説明ありがとうございました。各地域でいろいろな会議がある中で、地域住民としてはどこが主催していても自分にとっていいと思わない限りは出てこないだろうと思う。その中で、包括が実施する地域ケア会議の目的と、既存の会議の似ているところ、独自でここは追求したいというところがあると思うので、事前に話し合いながら各専門職や地域住民の負担にならないよう、効果的な会議の進め方を検討してほしい。これだけ地域での取り組みをしているため、地域ネットワーク形成会議がゼロということがあり得ないと思う。ただそこで、包括として何を狙って一緒にやっているのか、あるいはそれぞれの特徴が何かということを整理しながら、提案していただけるといい。

## 7. 情報交換

【テーマ】重層的支援が必要なケースにおけるチーム支援について

八幡山包括、大里中島包括、大谷久能包括から各々事例を発表してもらい、重層的な支援が必要な方への支援について意見交換を行った。

古井部会長：

今日のこの部会での協議内容を、参考にしてもらいながら、下半期の活動に向けて取り組んでいただきたい。